

くわえビジョン 実現へ邁進

桑江朝千夫沖縄市長 就任1年記念インタビュー

沖縄市復活！「くわえビジョン」の主な項目

- 潜在型観光の推進
 - ・沖縄こどもの国を日本一の動物園に拡充整備
 - ・1万人規模の多目的アリーナの建設
 - ・公設民営の「オキナワサーキット」を建設
 - ・泡瀬漁港を「海の駅」に拡充し、沖縄市を中心とした中部の物産を即売
- 都市基盤の整備・中心市街地の活性化・雇用の拡大
 - ・準工業地帯の基盤整備と製造関連企業の誘致
 - ・サーキット場建設で準工業地帯へ自動車産業を誘致し、5千人の雇用を実現
 - ・中の町B・C地区再開発
 - ・池武当地域に高速道路のスマートインターチェンジ設置促進
- 経済・産業の活力再生
 - ・(仮称)沖縄市産業振興会館を建設し、商工会議所や産業振興の活動拠点とする
 - ・物産振興会と観光協会を合併強化。市長が先頭に立ち観光と物産を一体的に戦略的に全国展開
 - ・県、うるま市と連携し、中城新港地区を振興する。特に東西の埠頭を結び港湾機能の整備促進と定期航路の実現
- 人材育成
 - ・青少年の非行やいじめ、ひきこもり等問題行動に対処するため、青少年センターを「青少年支援センター」に格上げ強化。地域社会と連携しながら児童生徒と親を支援サポートするシステムを構築する
 - ・経済的理由で塾に行けない子どもの学力向上対策のため、人材育成支援
- 福祉政策
 - ・高齢者や、中学生までインフルエンザ予防接種の無料化を段階的に実現し、医療費の抑制に努める
 - ・介護従事者をはじめとする福祉関係職員の処遇改善を国に強力に求める
 - ・障がい者雇用の促進
 - ・市営住宅入居の多子世帯や高齢者、1人親世帯の入居枠の拡大
 - ・1人親世帯の自立支援強化
 - ・多重債務相談専門窓口の設置
- 子育て支援
 - ・待機児童ゼロ
 - ・中学3年生まで段階的に通院医療費の無料化
 - ・小中学校の給食費軽減
 - ・認可幼稚園に給食導入
 - ・認可保育所増設や認可外保育所の支援強化と、保育士の処遇改善
 - ・ファミリーサポート・子育て支援センター、学童保育の公設民営設置、放課後児童クラブ等の支援拡充、公設民営の児童館増設
- 東部海浜開発事業の全面的推進
 - ・東部海浜に2万人規模のコンベンション機能、滞在機能、ショッピング機能を誘致する
 - ・国立科学スポーツセンター(JISS)の誘致
- 行政改革・市民との意見交換
 - ・不要、不急の事業の見直し。各課個別データをネットワーク化し、資料の重複作成廃止など事務の簡素合理化を推進する
 - ・防衛補助や一括交付金の新たな事業適用など効率的活用
 - ・庁議(部長会)のネット公開(中継)
 - ・市長とのタウンミーティング(市民との意見交換会)の定例化とネット公開



琉球王朝時代から現代までのコザ十字路かいわいの歴史と、未来の銀天街の街並みを描写した銀天街の巨大壁画の完成を祝い、テープカットする関係者と桑江朝千夫市長(右から3人目)＝1月31日、沖縄市照屋

桑江朝千夫沖縄市長が17日で就任1年を迎えた。「復活だ、沖縄市！」をスローガンに、中心市街地の活性化や観光誘致、待機児童ゼロといった95項目の公約をまっこと「くわえビジョン」実現へ歩みを進める。公約の重点に掲げる1万人規模の多目的アリーナは3月末で基本構想の策定を終え、沖縄こどもの国の整備拡充に向けた基本構想の策定も今月末で終える。桑江市長は「ビジョン実現へ」さらにスピードアップしていくと、沖縄市発展の基盤造りへ邁進する。

アリーナ、17年度に着工

1年を振り返って。「この1年、地域を巡るだけ巡り、自治会の敬老会や新年会に出席した。就任を喜んでくれた方が多くの方と出会い、力になった。市議、県議を誘って来たので行政の仕組みを知っているが、指揮を執るのは初めて。沖縄市を一緒に長くしていくため私の考えを口にしていくと課長級の職員全員と意見交換をした。1年間見てきたが、職員は大変優秀だ。与えられたものに真剣に取り組み、じっくりと研究が入ってこなくていいという姿勢がある。」

公約に掲げた施設の整備事業と、待機児童ゼロに向けた取り組みの状況は、

「1万人規模の多目的アリーナは2017年度に着工19年度の完成を目指している。闘牛場が、隣の公園用地の2カ所の中から1カ所に決めた。琉球ゴールデンキングスがホームタウンとして利

議を誘って来たので行政の仕組みを知っているが、指揮を執るのは初めて。沖縄市を一緒に長くしていくため私の考えを口にしていくと課長級の職員全員と意見交換をした。1年間見てきたが、職員は大変優秀だ。与えられたものに真剣に取り組み、じっくりと研究が入ってこなくていいという姿勢がある。」

公約に掲げた施設の整備事業と、待機児童ゼロに向けた取り組みの状況は、

「1万人規模の多目的アリーナは2017年度に着工19年度の完成を目指している。闘牛場が、隣の公園用地の2カ所の中から1カ所に決めた。琉球ゴールデンキングスがホームタウンとして利

施設稼働で独立採算の取れる収益をどう確保するか。「施設がお荷物とならないよう指定管理者制度を有効活用する。大きな施設の運営には集約や魅力あるイベントができる企画力のある企業が重要だ。ターゲットはランナー、観光客を誘致する。選手に当たっては市内に限らず、グローバルに考えてほしい。そういう企業をいれることで地元企業も勉強になる。将来的には地元でできる可能性も出てくる。指定管理者として出ている補助金が当然のように出ていくのは困る。市が持ち出しをする状況は指定管理者だけでなく、市の責任でもある。建設に向けてはあらゆる補助の中から有効な補助率の高いものを採りあげていく。」

一括交付金は2021年度まで。それ以後の財政対策をどう考えるか。

「自主財源を増やしていく。今後の抱負を。プロジェクトを着実に前に進めていく。中心市街地の活性化対策については補助金

施設稼働で独立採算の取れる収益をどう確保するか。「施設がお荷物とならないよう指定管理者制度を有効活用する。大きな施設の運営には集約や魅力あるイベントができる企画力のある企業が重要だ。ターゲットはランナー、観光客を誘致する。選手に当たっては市内に限らず、グローバルに考えてほしい。そういう企業をいれることで地元企業も勉強になる。将来的には地元でできる可能性も出てくる。指定管理者として出ている補助金が当然のように出ていくのは困る。市が持ち出しをする状況は指定管理者だけでなく、市の責任でもある。建設に向けてはあらゆる補助の中から有効な補助率の高いものを採りあげていく。」

一括交付金は2021年度まで。それ以後の財政対策をどう考えるか。

「自主財源を増やしていく。今後の抱負を。プロジェクトを着実に前に進めていく。中心市街地の活性化対策については補助金

街の人と一緒に考えたい

「内陸部の準工業地域(市知花・松本など)に製造業の誘致も進めていく。今、池武当に、インターチェンジ設置に向け検討を進めている。嘉手納町や読谷村からのアクセスも良くなり、交通の利便性が高まる。(東日本大震災以降)津波被害を想定して、企業が進出先を選ぶようになった。高台にある準工業地域に魅力を感じる企業も多いだろう。交通網が整い、地震災害の影響が少ない地域かどうかのチェックがポイント。企業を誘致していきたい。」

「撤出では医療費の伸びを抑えるため、市民の健康づくりの手伝いをしていきたい。昨年9月から40歳の男女は胃がんリスク検診を全額市負担で受けられるようにした。ことし10月から予定している。65歳以上のインフルエンザ予防接種の無料化に向けても取り組んでいる。そういった面を増やしていければ、医療費の抑制につながる。」

企業誘致や雇用創出で税収が増える施策を実施していく。東部海浜開発は有効だ。あそこは滞在型のリゾート地にできる。大手旅行会社や沖縄観光の協力を得ながら、県外、国外から観光客を呼び込みたい。」

「内陸部の準工業地域(市知花・松本など)に製造業の誘致も進めていく。今、池武当に、インターチェンジ設置に向け検討を進めている。嘉手納町や読谷村からのアクセスも良くなり、交通の利便性が高まる。(東日本大震災以降)津波被害を想定して、企業が進出先を選ぶようになった。高台にある準工業地域に魅力を感じる企業も多いだろう。交通網が整い、地震災害の影響が少ない地域かどうかのチェックがポイント。企業を誘致していきたい。」

「撤出では医療費の伸びを抑えるため、市民の健康づくりの手伝いをしていきたい。昨年9月から40歳の男女は胃がんリスク検診を全額市負担で受けられるようにした。ことし10月から予定している。65歳以上のインフルエンザ予防接種の無料化に向けても取り組んでいる。そういった面を増やしていければ、医療費の抑制につながる。」



3月4日に誕生したインフルエンザの赤ちゃん(母)

進



くわえ・さちお 1956年1月11日生まれ。沖縄市住吉出身。日本大法学部卒。94年沖縄市議に初当選し、3期務めた。2008年から県議、2期目途中の14年3月に辞職。同年4月の市長選で2万9968票を獲得し、第11代目市長に就任した。元沖縄市長の桑江朝幸氏（故人）の次男。

桑江朝幸夫沖縄市長が12日で就任1年を迎えた。「復活だ、沖縄市」をスローガンに、中心市街地の活性化や観光誘客、待機児童ゼロといった95項目の公約をまとめた「くわえビジョン」実現へ歩みを進める。公約の重点に据える1万人規模の多目的

施設稼働で独立採算の取れる収益をどう確保するか。「施設がお荷物」にならないように、市職員は慎重に検討している



誘致も進めていく。今、池武当に、インターチェンジ設置に向け検討を進めている。嘉手納町と読谷町のアンバ

自主財源増やし雇用創出

用することが決まった。多目的アリーナの建設は沖縄市民だけでなく県民の希望にもなったのではないかと、アリーナが完成すれば、例えばコンサートや大相撲、プロボクシングの興行といった1万人規模の観客を呼び込めるイベントができるようになる。観光誘客の可能性は大きく広がる。

「沖縄750の国の整備拡充では本年度内にソウ舎、チンハンジー舎が完成する。沖縄や奄美などの琉球弧に生息する動物を紹介するエリアの魅力を高める。2017年度見込んで進めている」

「サーキット場建設は基礎調査の段階だ。モータースポーツに関わる団体等の意見を聞き、ニーズや企業誘致の可能性を研究していく。どんなモータースポーツをするか、規模や場所、予算の問題もある。時間を掛け、民意を確かめながら確実にできる時期を見込んで進めている」

「待機児童ゼロに向け、沖縄市待機児童解消プランを策定した。17年度までのゼロを目指す。公立保育所建て替えによる定員増や認可外保育施設の見直し、地域型保育事業の実施、保育所での5歳児単独クラスの設置、私立認可園の分園促進等に対応する」

「幼稚園教育のさらなる充実をめざして、市立幼稚園での給食導入のモデル事業として、市内2カ所（泡瀬幼稚園、比屋根幼稚園）の幼稚園で実施する」